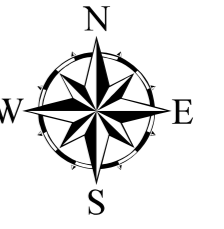




宿毛湾北東部 津波防災情報図（進入図）

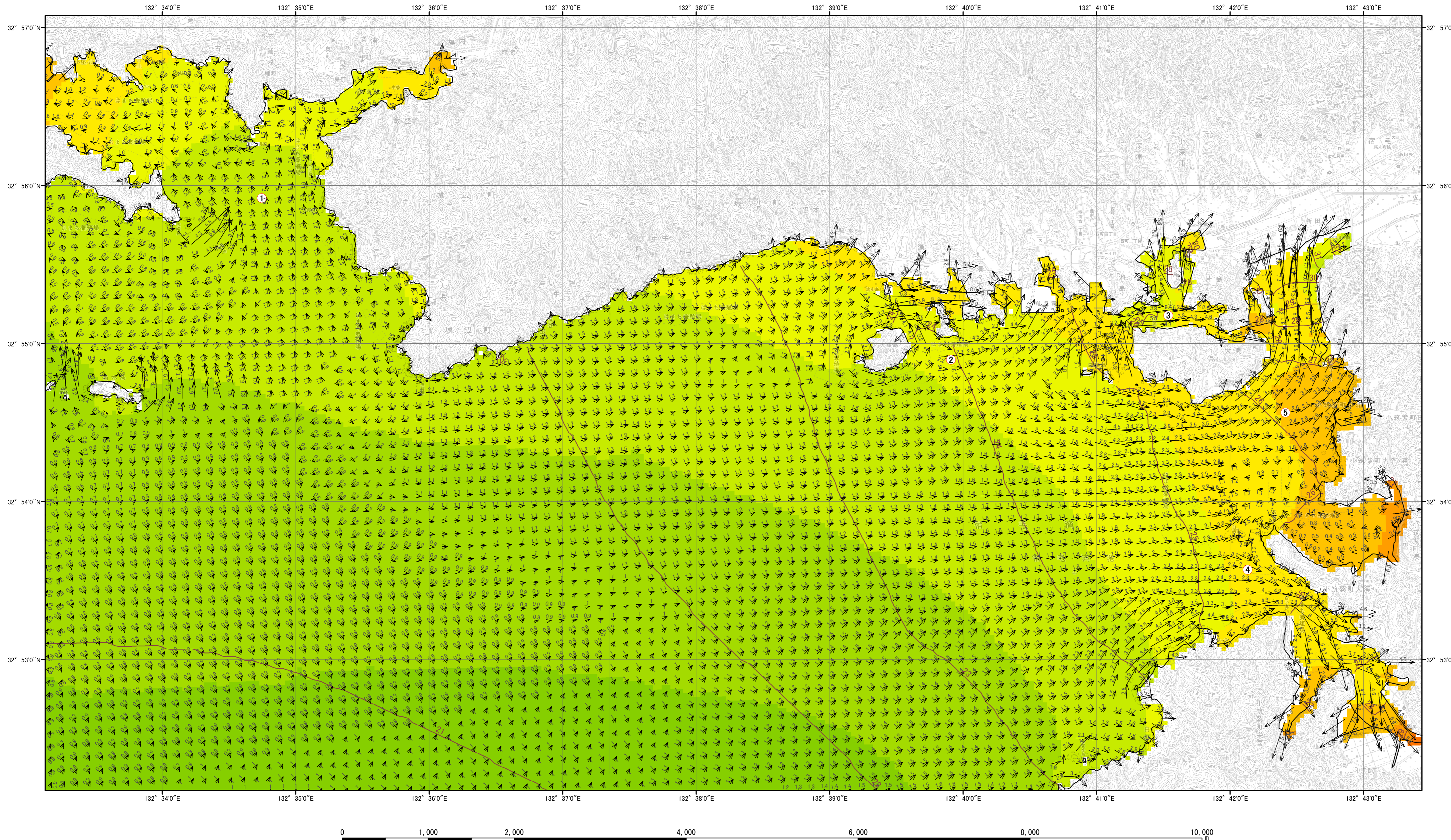


計算条件：最高水面
隆起量：平均 -76cm (-83cm ~ -69cm)

津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、試算した津波と異なることがあり、過去には、今回の津波の試算より大きな津波が来たことがある。

1:25,000

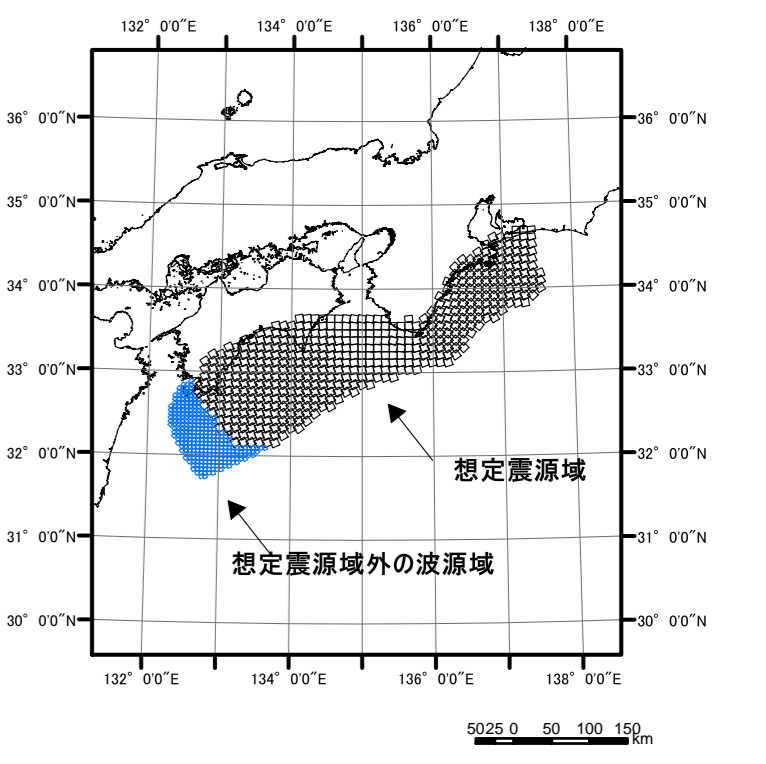
座標系：メルカトル図法
測地系：世界測地系(WGS-84)



- 凡例**
- 水位上昇(+10cm)となる等時線[分]
 - 経時変化図出力点
- 最大水位上昇**
- 450～最大490cm
 - 400～450cm
 - 350～400cm
 - 300～350cm
 - 250～300cm
 - 200～250cm
 - 150～200cm
 - 100～150cm
 - 50～100cm
 - 50cm未満
- 進入時最大流 [knot]**
- 6 knot
 - 4 knot
 - 2 knot

- 津波の到達時間は、水位が10cm変動した時点算出している。
- 海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算している。

想定震源域と波源域の位置



マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km ²)	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 X 10 ²¹	2.15 X 10 ²¹
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

試算には、海上保安庁海洋情報部の沿岸の海の基本図地形データ及び海図を作成する際の基礎データを使用した。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平18総復、第1035号)

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号 平18総使、第581号)

作成機関：海上保安庁
作成年月：平成19年3月(初版)

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

